

2020 年度 明治大学

【全学部統一】

解答時間 60分

配点 100点

世界史B, 日本史B, 地理B, 政治・経済

物理, 化学, 生物 問題

はじめに, これを読みなさい。

1. この問題冊子は149ページある。ただし, ページ番号のない白紙はページ数に含まない。各科目のページ数は以下のとおりである。必要な科目を選択して解答すること。

世界史B	1ページから22ページ
日本史B	23ページから38ページ
地理B	39ページから69ページ
政治・経済	70ページから89ページ
物理	90ページから103ページ
化学	104ページから122ページ
生物	123ページから149ページ

2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか, 受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい, 解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答用紙の「解答科目マーク欄」にマークし, 「解答科目名記入欄」に解答する科目名を記入すること。マークされていない場合, または複数の科目にマークされている場合は, この時限の科目は採点対象外となる。
5. 解答は, すべて解答用紙の所定欄にマークすること。
6. 1つの解答欄に2つ以上マークしないこと。
7. 解答は, 必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入のこと。
8. 訂正する場合は, 消しゴムできれいに消し, 消しくずを残さないこと。
9. 解答用紙は, 絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
10. 解答用紙はすべて回収するので, 持ち帰らず, 必ず提出すること。
11. 問題冊子は, 必ず持ち帰ること。
12. 試験時間は, 60分である。
13. 問題文の中で, 国名, 地域名, 企業名については略称, 通称も用いている。
14. マーク記入例

良い例	悪い例
	



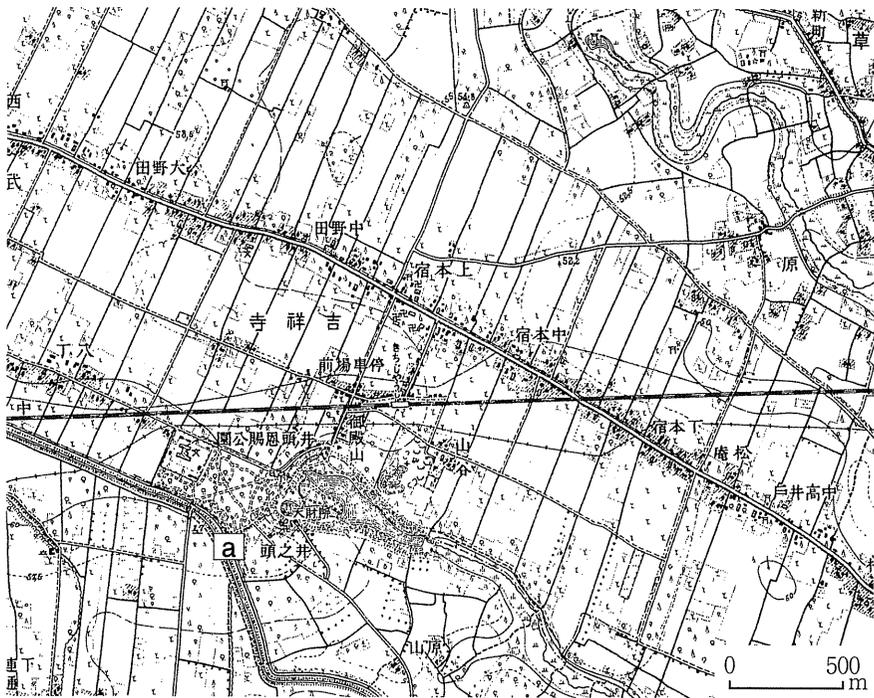


## 地 理 B

(解答番号 1～47)

〔 I 〕 村落と都市に関する以下の設問に答えなさい。

(A) 下の図1は1917年発行の地形図である。図の右下から左上へと走る道は東京の五日市街道である。この図を見て以下の問いに答えなさい。



注：25,000分の1の図幅を30,000分の1に縮小。

図 1

問 1 街道沿いに形成された集落形態を表す用語として適当なものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=1)

- A 疎塊村      B 散村      C 鳥居前町      D 路村

問 2 こうした集落形態の景観が形成された理由として適当なものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=2)

A 耕地開拓

B 宗教的理念

C 条里制

D 防御上の問題

問 3 人の暮らす集落には水が欠かせない。図 1 中の **a** で指示される線状の記号は玉川上水であり、武蔵野台地の西から東の江戸市中への送水に使われていた。一般的な用水の用途・機能として **もっとも適当でないもの**を、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=3)

A 飲料水

B 下水道

C 工業用水

D 発電

(B) 日本は第二次世界大戦後、急速に都市化していった。図2は、三大都市圏と地方圏の人口増減数を示している。この図に見られるように、1960年代の高度経済成長期には、東京・名古屋・大阪の三大都市圏に人口が急速に集中していった一方で、逆に農村部では人口が大幅に減少していった。1970年代の石油危機以降、Uターン現象が生じ地方都市の活性化が見られるようになったが、他方で大都市圏の都心部では空洞化も見られるようになった。1990年前後のバブル経済が崩壊して以降、東京都心部の地価は大幅に下落したが、高容積率の高層マンションやオフィスの建設が相次ぎ、再び都心へと人口の還流が見られるようになってきた。これは東京への **あ** のわかりやすい一局面と理解できよう。

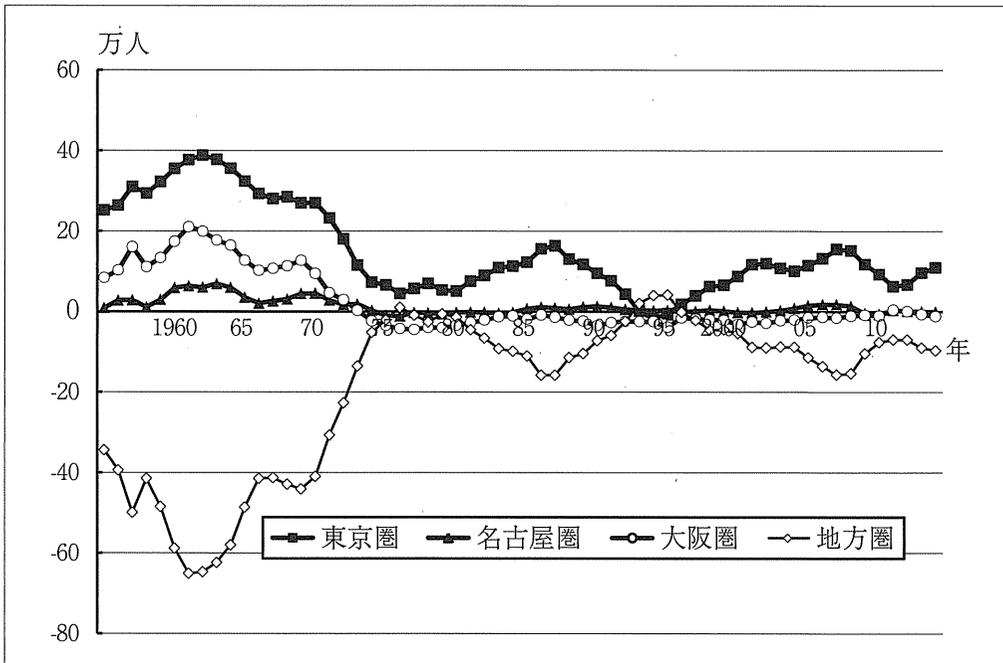


図2

資料：総務省統計局。

(<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h26/hakusho/h27/html/n1111000.html>)

問 4 下線部アの結果として、大都市圏で生じた現象として適切なものを、次の  
選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=4)

- |          |         |
|----------|---------|
| A 郊外化    | B 三世代同居 |
| C 首都機能移転 | D 再都市化  |

問 5 下線部イによって、大都市の都心部でみられた現象としてもっとも適切な  
ものを、次の選択肢から1つ選んで解答欄にマークせよ。(解答番号=5)

- |            |             |
|------------|-------------|
| A 地価の急激な高騰 | B 土地利用の高密度化 |
| C 夜間人口の減少  | D IT産業の活性化  |

問 6 下線部ウについて、この現象に関連する用語として**適当でないもの**を、次  
の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=6)

- |        |                |
|--------|----------------|
| A 都心回帰 | B ジェントリフィケーション |
| C スラム化 | D ウォーターフロント開発  |

問 7 空欄  に該当するものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄に  
マークせよ。(解答番号=7)

- |          |          |
|----------|----------|
| A 一極集中   | B 首都機能移転 |
| C スプロール化 | D 反都市化   |

(C) 日本における城郭は、中世までは戦乱に備え山地・丘陵や台地の先端部などに作られた。近世になって社会が安定期になると、低地に作られるようになった。そこでは、武家屋敷と、職人や商人らの暮らす町人地とが隣接して街区を構成する  が形成されていくようになった。また、全国規模の流通も発展したので、海運の盛んな都市には港町も作られていった。こうした別の機能を持つ都市が、 の比較的近くに立地し、近世以来の役割分担を残しつつ現在に至った事例もみられる。

問 8 空欄  に該当する用語を、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=8)

- A 囲郭都市      B 城下町      C 城塞都市      D 衛星都市

問 9 下線部Ⅰに該当する都市の組み合わせとして**適当でないもの**を、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=9)

- A 鶴岡と酒田      B 仙台と気仙沼  
C 首里と那覇      D 福岡と博多

(D) ヨーロッパの都市の景観と北アメリカの都市の景観とでは、それらを特徴づける構成物に大きな違いがある。また、都市の特徴は、景観だけでなく、形態や規模など、世界中でさまざまなかたちとして表れている。このことを踏まえて以下の問いに答えよ。

問10 下線部オについて、とりわけ中世から続くような都市では、旧市街地に特徴的な景観構成物がみられる。その景観構成物として**適当でないもの**を、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=10)

- A 市庁舎            B 聖堂            C 広場            D 摩天楼

問11 下線部力について、現代のアメリカ合衆国における大都市の都心地域における代表的な景観構成物として**適当でないもの**を、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=11)

- A エスニックタウン            B 高層オフィスビル  
C 城郭            D ボールパーク

〔Ⅱ〕 世界と日本の農林水産業に関する以下の設問に答えなさい。

問 1、表 1 は、タイ、中国、マレーシアの農林水産業の概況を示したものである。X～Z に当てはまる国名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から 1 つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=12)

表 1

	X	Y	Z
総就業人口に占める農林水産業就業人口の割合(%)	33.3	18.4	11.4
国土面積に占める耕地・樹園地面積の割合(%)	41.5	14.1	22.8
国土面積に占める牧場・牧草地面積の割合(%)	1.6	41.1	0.9
GDP に占める農林水産業の割合(%)	8.3	8.9	8.9

注：統計年次は 2016 年。ただし、国土面積に占める耕地・樹園地面積および牧場・牧草地面積の割合は 2015 年。

資料：『世界国勢図会 2018/19』。

	X	Y	Z
A	タイ	中国	マレーシア
B	タイ	マレーシア	中国
C	中国	タイ	マレーシア
D	中国	マレーシア	タイ
E	マレーシア	タイ	中国
F	マレーシア	中国	タイ

問 2 図 3 は、世界の米、大豆、トウモロコシの生産量の推移を示したものである。図中の①～③に当てはまる作物名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から 1 つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=13)

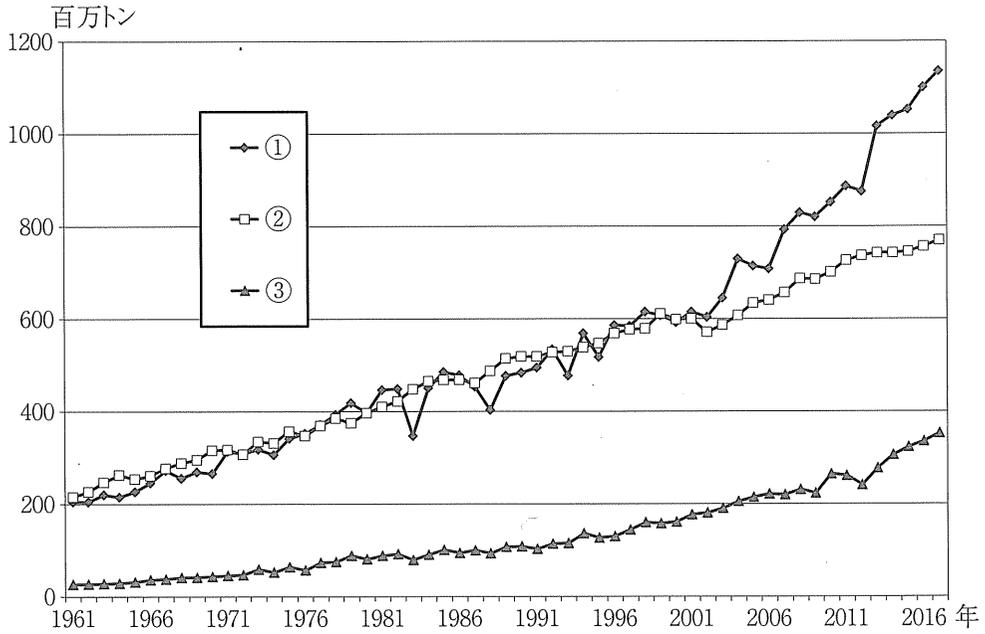


図 3

資料：FAOSTAT。

	①	②	③
A	米	大豆	トウモロコシ
B	米	トウモロコシ	大豆
C	大豆	米	トウモロコシ
D	大豆	トウモロコシ	米
E	トウモロコシ	米	大豆
F	トウモロコシ	大豆	米

問 3 表 2 は、世界の小麦の生産量と輸出量の上位 5 カ国とその割合を示したものである。表中の X～Z はアメリカ合衆国、オーストラリア、中国のいずれかである。X～Z に当てはまる国名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から 1 つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=14)

表 2

順位	生産量		輸出量	
	国	割合(%)	国	割合(%)
1 位	X	17.8	ロシア	13.8
2 位	インド	12.3	Y	13.1
3 位	ロシア	9.8	カナダ	10.7
4 位	Y	8.4	フランス	10.0
5 位	カナダ	4.3	Z	8.8

注：統計年次は 2016 年。

資料：FAOSTAT。

	X	Y	Z
A	アメリカ合衆国	オーストラリア	中国
B	アメリカ合衆国	中国	オーストラリア
C	オーストラリア	アメリカ合衆国	中国
D	オーストラリア	中国	アメリカ合衆国
E	中国	アメリカ合衆国	オーストラリア
F	中国	オーストラリア	アメリカ合衆国

問 4 表 3 は、牛肉、鶏肉、豚肉の世界総生産量、ならびに世界の生産量上位 5 カ国とその割合を示したものである。表中の X～Z はアメリカ合衆国、中国、ブラジルのいずれかである。

表 3

食肉種類	①		②		③	
総生産量	120 百万トン		109 百万トン		66 百万トン	
順位	国	割合(%)	国	割合(%)	国	割合(%)
1 位	X	45.5	Y	17.6	Y	18.0
2 位	Y	9.7	Z	12.5	Z	14.4
3 位	ドイツ	4.6	X	11.8	X	10.4
4 位	スペイン	3.6	ロシア	4.1	アルゼンチン	4.3
5 位	Z	3.2	インド	3.2	オーストラリア	3.1

注：統計年次は 2017 年。

資料：FAOSTAT。

- (1) 表 3 の①～③に当てはまる食肉種類の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から 1 つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=15)

	①	②	③
A	牛肉	鶏肉	豚肉
B	牛肉	豚肉	鶏肉
C	鶏肉	牛肉	豚肉
D	鶏肉	豚肉	牛肉
E	豚肉	牛肉	鶏肉
F	豚肉	鶏肉	牛肉

- (2) 表3のX～Zに当てはまる国名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から1つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=16)

	X	Y	Z
A	アメリカ合衆国	中国	ブラジル
B	アメリカ合衆国	ブラジル	中国
C	中国	アメリカ合衆国	ブラジル
D	中国	ブラジル	アメリカ合衆国
E	ブラジル	アメリカ合衆国	中国
F	ブラジル	中国	アメリカ合衆国

- 問5 表4は世界の大豆と大豆油の生産量の上位5カ国とその割合を示したものである。表中のA～Dはアメリカ合衆国、アルゼンチン、中国、ブラジルのいずれかである。中国に該当するものを、表中のA～Dから1つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=17)

表4

順位	大豆		大豆油	
	国	割合(%)	国	割合(%)
1位	A	34.9	D	25.6
2位	B	28.3	A	21.2
3位	C	17.4	B	16.3
4位	D	4.0	C	15.5
5位	インド	3.4	インド	2.7

注：統計年次は2014年。

資料：FAOSTAT。

問 6 イギリス, オランダ, 韓国, サウジアラビアの 2013 年の穀物自給率(国内生産量÷国内供給量)(FAOSTAT による)は, いずれも 100 %を下まわる。このうち, 穀物自給率が 50 %を上まわる国を, 次の選択肢から 1つ選び, 解答欄にマークせよ。(解答番号=18)

- |        |           |
|--------|-----------|
| A イギリス | B オランダ    |
| C 韓国   | D サウジアラビア |

問 7 「緑の革命」に関する記述として適切なものを, 次の選択肢から 1つ選び, 解答欄にマークせよ。(解答番号=19)

- A 「緑の革命」とは, 草木灰を肥料とする粗放的な焼畑農業にかわり, 化学肥料を大量投入することで集約的な連続栽培を可能にした技術革新のことである。
- B 「緑の革命」とは, 遺伝子組み換え技術を応用した新品種の開発と普及のことであり, この技術革新により, 農薬や化学肥料の投入を減らすことができた。
- C 「緑の革命」とは, 農薬や化学肥料の投入を減らし, 安全・安心な農産物の生産に力を入れる, 先進国を中心とする農業技術革新のことである。
- D 「緑の革命」とは, 化学肥料の大量投入と灌漑整備に対応した高収量品種の開発と普及により, 発展途上国の食料増産を実現した技術革新のことである。

問 8 図 4 は、日本の地域別の農業産出額の割合(%)を示したものである。図中の①～③は、関東・東山(関東の 1 都 6 県と山梨県・長野県)、北陸(新潟・富山・石川・福井の 4 県)、北海道のいずれかである。①～③に当てはまる地域名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から 1 つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=20)

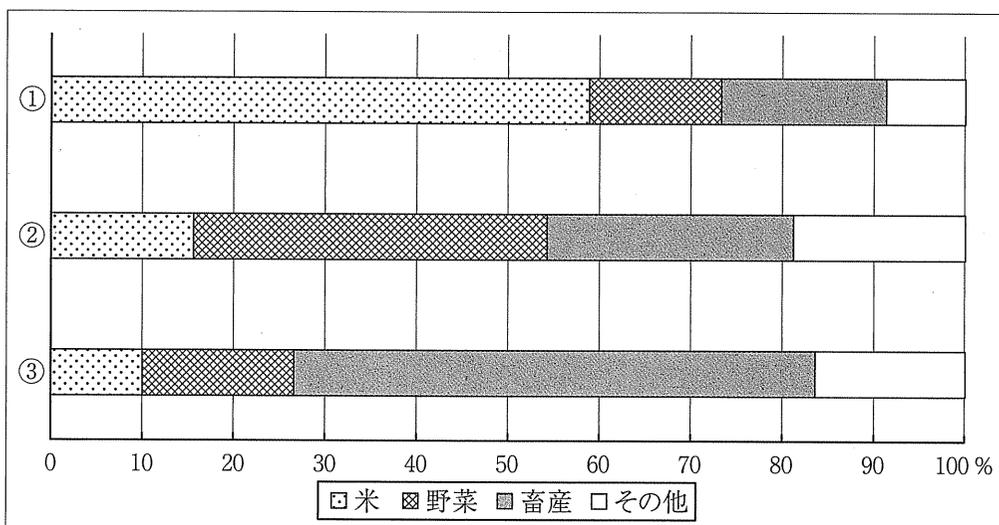


図 4

注：統計年次は 2017 年。

資料：『日本国勢図会 2019/2020』。

	①	②	③
A	関東・東山	北陸	北海道
B	関東・東山	北海道	北陸
C	北陸	関東・東山	北海道
D	北陸	北海道	関東・東山
E	北海道	関東・東山	北陸
F	北海道	北陸	関東・東山

問 9 表 5 は、オレンジ類、ぶどう、リンゴについて、世界の総生産量および生産量上位 4 カ国とその割合を示したものである。表中の①～③に当てはまる果実名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から 1 つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=21)

表 5

果実種類	①		②		③	
総生産量	105,980 千トン		89,329 千トン		77,439 千トン	
順位	国名	割合 (%)	国名	割合 (%)	国名	割合 (%)
1 位	中国	24.1	中国	49.8	中国	19.1
2 位	ブラジル	17.2	アメリカ合衆国	5.2	イタリア	10.6
3 位	インド	7.1	ポーランド	4.0	アメリカ合衆国	9.2
4 位	スペイン	5.7	トルコ	3.3	フランス	8.1

注：統計年次は 2016 年。オレンジ類はみかん等を含む。

資料：『世界国勢図会 2018/19』。

	①	②	③
A	オレンジ類	ぶどう	リンゴ
B	オレンジ類	リンゴ	ぶどう
C	ぶどう	オレンジ類	リンゴ
D	ぶどう	リンゴ	オレンジ類
E	リンゴ	オレンジ類	ぶどう
F	リンゴ	ぶどう	オレンジ類

問10 図5は、日本の漁業種類別漁獲量の推移を示したものである。図中のA～Dは遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業、海面養殖業のいずれかである。遠洋漁業に該当するものを、図中のA～Dから1つ選び、解答欄にマークせよ。  
(解答番号=22)

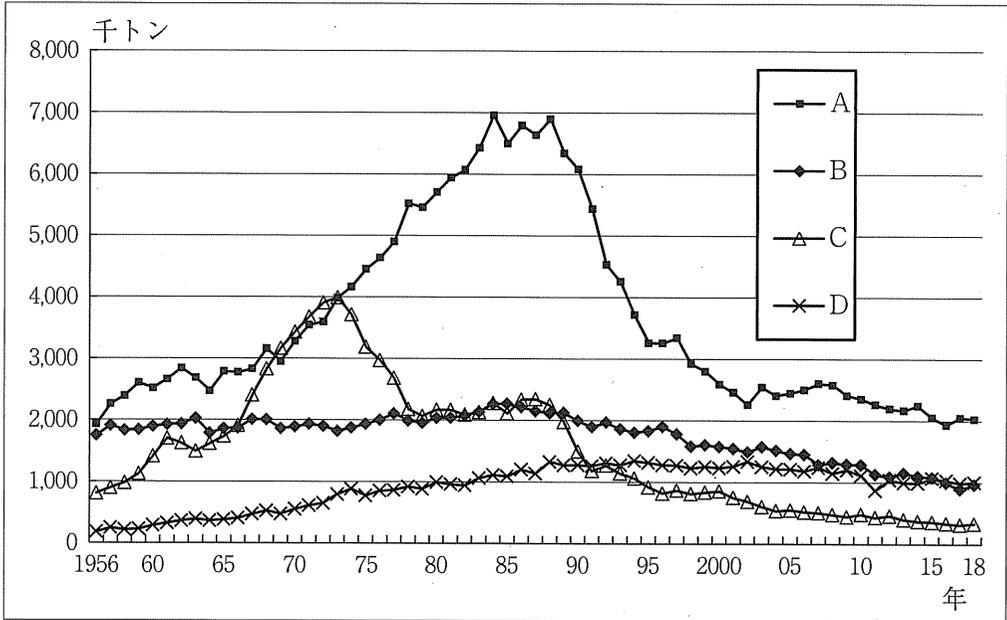


図5

資料：『漁業・養殖業生産統計年報』など。

問11 図6は、インドネシア、中国、日本の国土面積に占める森林面積の割合を示したものである。図中のX～Zに当てはまる国名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から1つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号＝23)

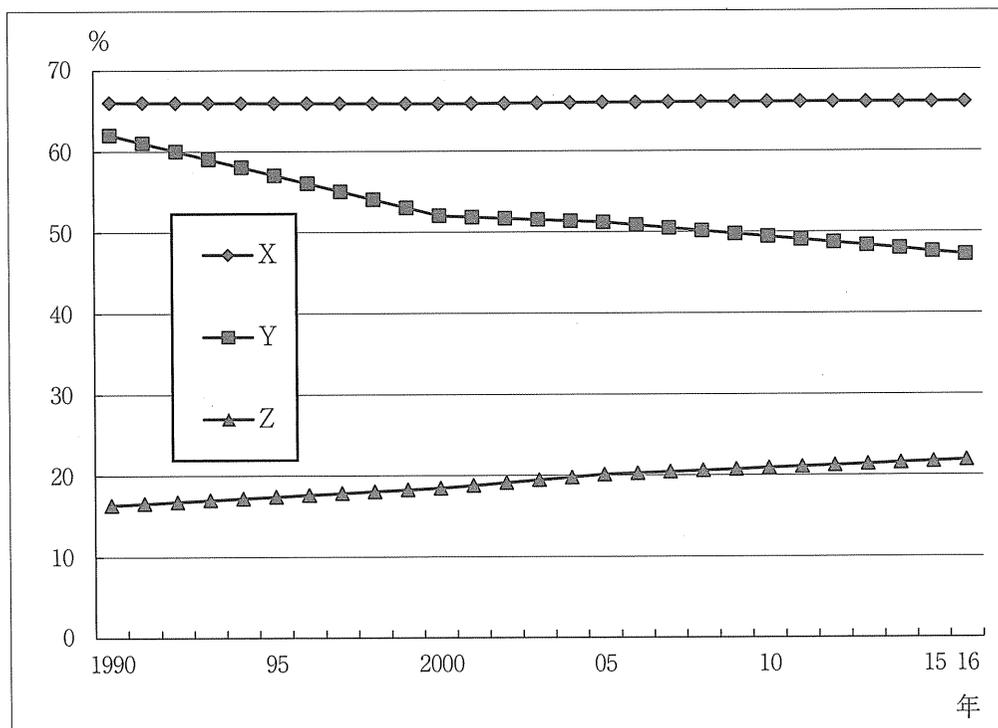


図6

資料：FAOSTAT。

	X	Y	Z
A	インドネシア	中国	日本
B	インドネシア	日本	中国
C	中国	インドネシア	日本
D	中国	日本	インドネシア
E	日本	インドネシア	中国
F	日本	中国	インドネシア

問12 図7は、中国、ペルー、ロシアの漁獲量の推移を示したものである。図中のX～Zに当てはまる国名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から1つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号=24)

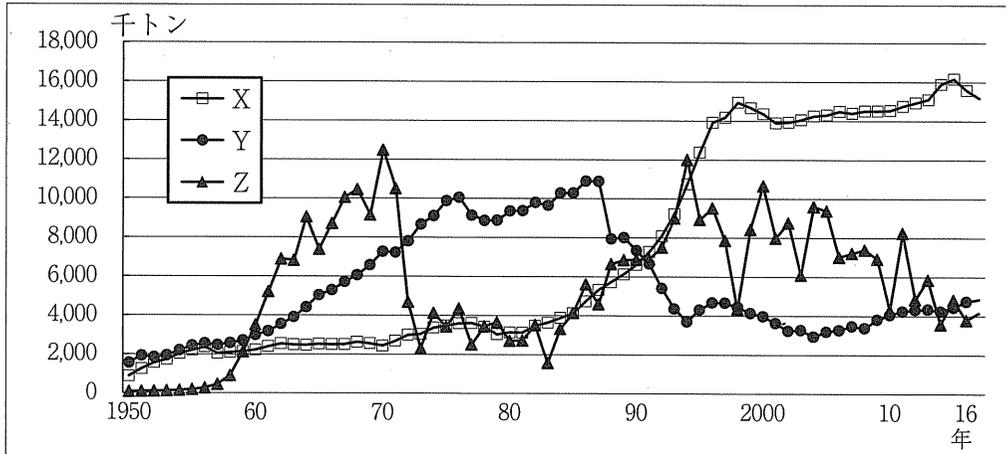


図7

注：(1)漁獲量は魚類、甲殻類、軟体動物の漁獲量の合計。養殖業は含まない。

(2)1987年以前のロシアは、ソ連のデータ。

資料：FAO, Fisheries Statistics。

	X	Y	Z
A	中国	ペルー	ロシア
B	中国	ロシア	ペルー
C	ペルー	中国	ロシア
D	ペルー	ロシア	中国
E	ロシア	中国	ペルー
F	ロシア	ペルー	中国

〔Ⅲ〕 第三次産業に関する以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

(A) G 7 諸国をはじめとする現代の先進各国では、サービス経済化が急速に進んで、全就業者に占める第三次産業の就業者の割合が概ね3分の2を上回るようになってきている。第三次産業は、商業や宿泊・飲食サービス業、運輸業、情報通信業、金融・保険業、不動産業、学術研究、専門・技術サービス業、医療・福祉など、第一次・第二次産業以外の多岐にわたる産業群からなる。

日本でも、第三次産業の就業者数は増え続け、2015年の『国勢調査』の結果によれば、全就業者の7割を超えている。

第三次産業の中で、就業者が最も多いのは商業である。商業は大きく分けて、小売業と卸売業の2つからなる。小売業は、消費者に商品を直接販売する。零細個人商店から百貨店・総合スーパーや専門スーパーなどからなる。コンビニエンスストアやドラッグストアなどの業態も含まれている。卸売業は、生産者と小売業(地域需要)の間を橋渡しする役割を担っており、「流通の要・拠点」などと言われている。繊維・衣料、機械器具など各種商品の問屋や商社などからなる。

第三次産業のうちサービス関連業種は、サービスを提供する対象に基づいて、生産者(対事業所)サービス業、消費者(対個人)サービス業、公共(社会)サービス業の3つに分類されることがある。

生産者(対事業所)サービス業は、情報通信業、広告・宣伝、法律・会計、物品賃貸業などを<sup>工</sup>含み、サービス経済化を牽引するサービス業と言われる。

消費者(対個人)サービス業は、一般の消費者の需要に応じてサービスを提供する。飲食、宿泊、理容・美容、クリーニングなど多くのサービスが含まれ、同じく個人を相手とする小売業を上回る伸びを示している。

医療や社会福祉、<sup>オ</sup>教育などの公共(社会)サービス業は、基本的には非営利的な部門である。従来、その多くは行政によって提供されてきたが、1990年代以降、行財政改革などによって規制緩和が進められ、民間企業やNPOなどに外部委託される例が増えている。<sup>カ</sup>

問 1 下線アに関連して、下の表6はG7諸国の産業別就業者割合(2016年)を、農林漁業就業数の多い順に左から国別に並べて示したものである。このうち、表中のa・b・cの3カ国はイタリア、カナダ、フランスのいずれかである。a・b・cに当てはまる国名の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号=25)

表6

(%)

	アメリカ 合衆国	日本	a国	b国	ドイツ	イギリス	c国
農林漁業	1.7	3.5	3.9	2.9	1.3	1.1	1.9
鉱業・採石	0.5	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3	1.5
製造業	10.4	16.8	18.2	12.3	19.2	9.5	9.6
電気・ガス・水道	0.9	1.0	1.6	1.4	1.3	1.4	0.8
建設	7.0	7.8	6.2	6.5	6.7	7.3	7.7
卸・小売	11.8	17.2	14.2	13.3	14.1	13.1	16.7
宿泊・飲食	6.2	6.1	6.1	4.4	3.8	5.7	6.7
運輸・情報通信	7.0	9.1	7.2	8.0	5.3	7.7	6.1
金融・保険	4.1	3.0	2.8	2.9	3.2	2.8	4.5
不動産・専門サービス	10.3	9.7	11.4	11.2	11.2	15.7	13.6
公務・社会保障	6.8	3.7	5.6	9.3	7.0	4.9	5.1
教育	10.2	4.8	6.8	7.6	6.5	9.8	7.0
医療・福祉	15.2	12.6	8.1	14.8	12.8	14.2	12.9

注：表中の産業以外は掲出していないので、合計が100%にならない。

資料：ILO “ILOSTAT”，ILOの推計値。

出典：『世界国勢図会 2018/19』。

	a国	b国	c国
A	イタリア	カナダ	フランス
B	イタリア	フランス	カナダ
C	カナダ	イタリア	フランス
D	カナダ	フランス	イタリア
E	フランス	イタリア	カナダ
F	フランス	カナダ	イタリア

問 2 下線イに関して，国際的な標準産業の大分類では第二次産業に分類されるのに対して，日本では第三次産業に分類される産業がある。その事例として適切なものを，次の選択肢から1つ選んで，解答欄にマークせよ。(解答番号=26)

- A 建設業
- C 製造業

- B 鉱業
- D 電気・ガス・水道業

問 3 下線ウに関して、小売業の地理的な特徴をみるために、図 8 のように北海道・東北地方における人口 10～50 万人の都市の人口(X軸)と小売業年間商品販売額(Y軸)との関係を示してみた。なお、札幌市と仙台市は突出して人口規模が大きいため、除いてある。都市の人口規模と小売業の年間商品販売額との関係についての説明として適切なものを、次の選択肢から 1 つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号：27)

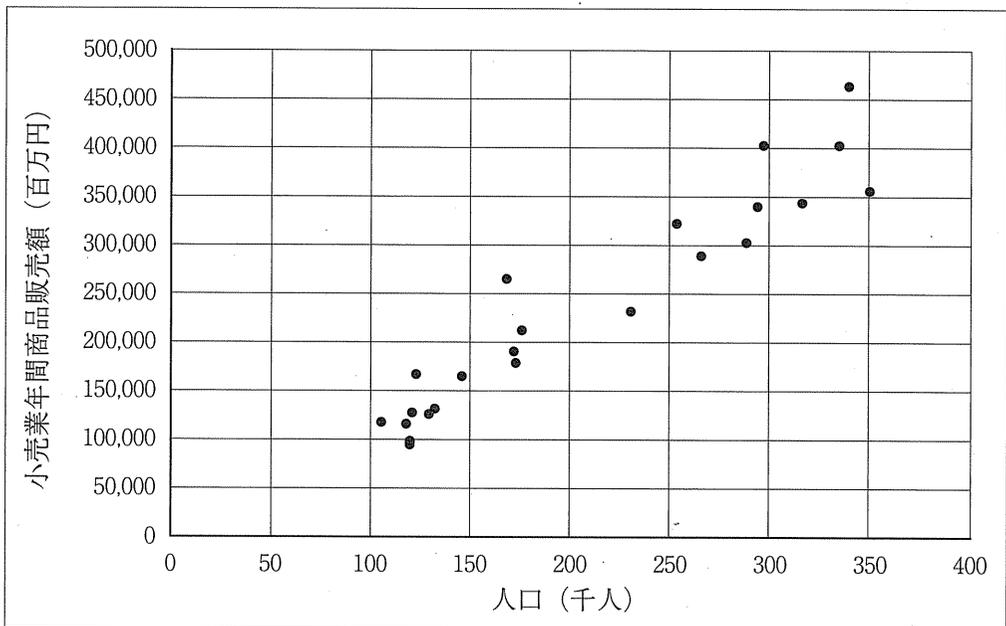


図 8

資料：『国勢調査』(2015)，『商業統計表』(2014)。

- A 都市人口が多くなると、年間商品販売額が減少する
- B 都市人口と年間商品販売額には一定の関係がみられない
- C 都市人口にかかわらず、年間商品販売額は一定である
- D 都市人口が多くなると、年間商品販売額が増加する

問 4 下線工に関して、生産者(対事業所)サービス業は、日本では大都市圏、特に首都圏に集中する傾向にあると言われている。首都圏への集中度が比較的低い傾向にあるサービス業種として適切なものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号：28)

- |          |           |
|----------|-----------|
| A 機械修理   | B 情報処理・提供 |
| C ソフトウエア | D デザイン    |

問 5 下線オに関して、消費者(対個人)サービス業の成長の理由として適切なでないものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号：29)

- A 家庭内の多様な仕事が産業として提供されるようになった
- B 少子高齢化に伴って、多様な仕事が家庭内で供給されるようになった
- C 消費者がモノの購入よりもサービスの消費を増やすようになった
- D 共働きが増え、家庭内の多様な仕事が外部に求められるようになった

問 6 下線カに関して、これを説明する用語として適切なものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号：30)

- |         |           |
|---------|-----------|
| A 公営化   | B 第三セクター化 |
| C 公共事業化 | D 民営化     |

(B) 国連世界観光機関(UNWTO)の資料によれば、2018年における世界全体の国際観光客数は14億人に達している。そのうち、ヨーロッパを訪れた国際観光客数は7億1260万人(世界全体に占める割合：50.8%)であり、出発地でみても同じく48.0%を占めている(『観光白書(2019)』)。このように国際観光客数の到着数・出発数のいずれからみても、ヨーロッパは世界最大の観光地である。

ヨーロッパ諸国では、バカンス(長期休暇)の取得が法律で認められている国が多く、観光が普及するのも比較的早かった。所得の増加や交通の発達、リゾート開発に伴って、マスツーリズムが生まれ、多くの人びとはリゾートに長く滞在する長期観光を楽しむようになった。まず、夏のバカンスが一般化し、地中海沿岸に代表される海岸リゾートが誕生し、宿泊施設や観光産業が集まるようになった。その後、冬季バカンスも普及し、山岳・スキーリゾートが登場した。また、戦後復興と高度経済成長に伴って、古い時代の建築物や街並みも整備され、都市や町の歴史と雰囲気を楽しむ  ツーリズムの潮流も定着し、このことが逆に都市計画やまちづくりにも影響を及ぼしている。

近年では、自然の豊かな地域において自然環境とともに地域の文化・歴史などを学び体験する  ツーリズムや、自然が豊かな農山漁村にゆったりと滞在して、地域の生活・文化、人と触れ合い、農林漁業を楽しむ  ツーリズムも人気を呼んでいる。

問 7 下線キに関して，下の図 9 はヨーロッパをさらに 4 つの地域に区分した場合の観光客の到着数を示している。2016 年の到着数の多い順に左から並べてあり，最も右が到着数の最も少ない北欧である。図中の地域名 d・e・f の組合せとして適切なものを，次の選択肢から 1 つ選んで，解答欄にマークせよ。(解答番号：31)

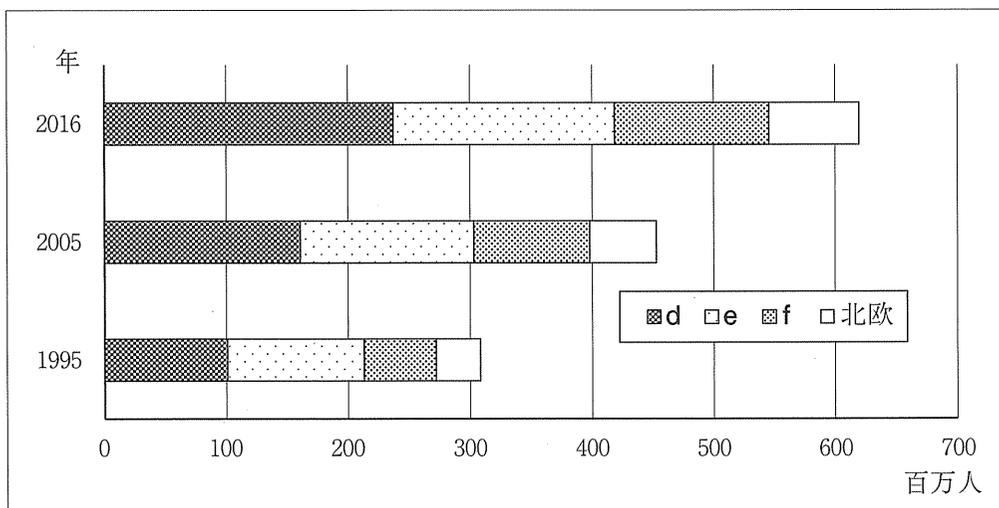


図 9

資料：国連世界観光機関 (UNWTO) 資料。

	d	e	f
A	西欧	中・東欧	南欧
B	西欧	南欧	中・東欧
C	中・東欧	西欧	南欧
D	中・東欧	南欧	西欧
E	南欧	西欧	中・東欧
F	南欧	中・東欧	西欧

問 8 表7は、国・地域別国際観光客の到着数と輸出に占める国際観光収入の割合、同じく出国数と輸入に占める国際観光支出の割合(2016年、上位10カ国)を示している。表中の **あ** ~ **か** 国はいずれもヨーロッパの国々である。このうち、**あ** 国と **お** 国の国名として適切なものを、次の選択肢からそれぞれ1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号：**あ=32**、**お=33**)

表 7

	到着数 (万人)	輸出に占める国 際観光収入割合 (%)		出国数 (万人)	輸入に占める国 際観光支出割合 (%)
<b>あ</b> 国	8,257	6.9	中国	13,513	13.4
アメリカ合衆国	7,561	11.1	香港	9,176	4.1
<b>い</b> 国	7,532	14.9	<b>お</b> 国	9,097	6.6
中国	5,932	2.0	アメリカ合衆国	7,345	5.9
<b>う</b> 国	5,237	7.3	<b>え</b> 国	7,082	10.0
<b>え</b> 国	3,581	7.5	<b>か</b> 国	4,450	3.8
<b>お</b> 国	3,556	3.3	ロシア	3,166	10.4
メキシコ	3,508	5.2	カナダ	3,128	5.7
タイ	3,253	18.6	<b>う</b> 国	3,085	5.1
トルコ	3,029	14.2	<b>あ</b> 国	2,648	6.3

注：到着数と出国数は集計方法などが異なるので留意されたい。

資料：世界銀行"World Development Indicators"。

- A イギリス      B イタリア      C オランダ      D スペイン  
E ドイツ      F フランス      G ベルギー      H ポーランド

問 9 下線クについて、地中海沿岸の海岸リゾートとして適切でないものを次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号：34)

- A アマルフィ      B カンヌ  
C ニース      D ルーアン

問10 空欄  ・  ・  に関して、空欄に入る用語の組み合わせとして適切なものを、次の選択肢から1つ選んで、解答欄にマークせよ。(解答番号：35)

	ケ	コ	サ
A	アーバン	エコ	グリーン
B	アーバン	グリーン	エコ
C	エコ	アーバン	グリーン
D	エコ	グリーン	アーバン
E	グリーン	アーバン	エコ
F	グリーン	エコ	アーバン

〔Ⅳ〕 太平洋地域に関する次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

太平洋地域は、空間的には地球上で最大の面積を有する地域である。地表部分のそれはもちろん世界最小であり、人口分布や経済圏の点からも極めて極小で周辺的ではある。それらは通常、ア、イ、ウの3つの地域に分けられている。

一般的には、アは東半球の概ねエ以北、オ以南にある島々の総称であり、イは、オーストラリアの北・北東に位置し、東半球の概ねエ以南にある島々の総称である、とされている。これに対して、ウは、概ね西半球にあって、北はカ、南はキ、東はラバヌイ(イースター)島を結んだ三角形の中にある諸島の総称である。

グローバル・ツーリズムの観点からは画一的に「南国の楽園」として見られることも少なくないが、それぞれの諸島国家・地域は実際には多様な歴史経済的および社会文化的背景を有している。この地域は、いわゆる大航海時代以降、特に19世紀の欧米列強の軍事力を伴った進出といった長期的なグローバル化の波を最も受けやすかった。事実、19世紀前半から20世紀半ば過ぎまでは、いわば第一次グローバル化としての主に北半球欧米諸国による植民地化が一貫して進行したのである。

1960年代以降、多くの諸島国家が独立を遂げてきたが、産業基盤が弱かった当該諸国の経済的自立は総じて困難で、旧宗主国との関係を頼ったいわゆる「国際的な出稼ぎ」による送金が、独立間もない諸島国経済の主要な部分を支えてきた。中には、ナウルのように肥料となる独自の天然資源の輸出や、南半球に位置する立地上の利点を生かした農産品の輸出で成功したトンガなど、観光関連産業以外でも、グローバルな貿易を通じて独自の経済発展を図った事例なども見られた。

1980年代以降、この地域にも世界の諸地域と同様の新自由主義的な大規模経済開発の波が新たに及んできており、当該地域の経済と社会は、再び大きな変貌を遂げようとしている。さらに、グローバルな気候変動の一環である温暖化によるこれまでに類例のない海水面上昇は、固有の領土の喪失という極めて深刻な問題を投げかけている。

問 1 空欄  ・  ・  に当てはまる地域名の組合せとして適切なものを次の選択肢から1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=36)

	ア	イ	ウ
A	ポリネシア	ミクロネシア	メラネシア
B	ポリネシア	メラネシア	ミクロネシア
C	ミクロネシア	ポリネシア	メラネシア
D	ミクロネシア	メラネシア	ポリネシア
E	メラネシア	ポリネシア	ミクロネシア
F	メラネシア	ミクロネシア	ポリネシア

問 2 空欄  ・  に当てはまる用語として適切なものを次の選択肢からそれぞれ1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=エ：37, オ：38)

- A 北回帰線      B 赤道      C 南緯 10 度      D 南緯 20 度  
E 北緯 10 度      F 北緯 20 度      G 南回帰線

問 3 空欄  ・  に当てはまる名称として適切なものを下記の選択肢からそれぞれ1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=カ：39, キ：40)

- A ミッドウェー諸島      B ハワイ諸島      C フェニックス諸島  
D ソシエテ諸島      E クック諸島      F ニュージーランド

問 4 (1) 下線クに関して、 地域にある  は、1853年に欧米列強の一つ  によって領有が宣言され、1946年までその植民地であった。その後、 の海外領土になり、現在でも  の特殊な地方行政区画「特別共同体」である。19世紀後半に発見された、ある金属の世界的な生産地として繁栄するとともに、豊かな自然を活かして観光業も歴史的に盛んである。空欄  ・  に該当する組合せとして適切なものを次の選択肢からそれぞれ1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=41)

	あ	い
A	ウォリス・フツナ	イタリア
B	ニューカレドニア	フランス
C	ピトケアン諸島	イギリス
D	ジョンストン島	アメリカ合衆国

(2) 下線クに関して、例外的に南半球の国家が現在も直接統治を行っている事例がある。統治されている(諸)島名と南半球の国家名の組合せとして適切なものを次の選択肢から1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=42)

	統治される(諸)島	統治国家名
A	フィジー諸島	オーストラリア
B	ニウエ	オーストラリア
C	ラパヌイ(イースター)島	チリ
D	クック諸島	ニュージーランド

問 5 下線ケに関して、当該地域における独立国と旧宗主国(共同信託統治を含む)の組合せとして適切でないものを次の選択肢から1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=43)

	独立国	旧宗主国
A	フィジー	イギリス
B	キリバス	フランス
C	ナウル	オーストラリア
D	パラオ	アメリカ合衆国

問 6 下線コに関して、過剰採掘によって現在は枯渇してしまったが、この時期には豊かであった天然資源の起源(由来)について、適切なものを次の選択肢から1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=44)

- A サンゴ            B 海鳥            C 海水            D 貝塚

問 7 (1) 下線サに関して、この農産品の主要輸出先は、もともと冬至に食べる習慣のあった日本であった。この農産品の名称について適切なものを次の選択肢から1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=45)

- A ピーマン            B ゆず            C 根深ネギ            D かぼちゃ

(2) 日本が輸入する前問(1)の農産品は近年、メキシコなどからの輸入増によって、トンガからの輸入量が減少している。このため、このトンガの農産品の主要輸出先は近年、変化しつつある。その新たな主要輸出先とみられる国を、次の選択肢から1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=46)

- A アメリカ合衆国            B マレーシア  
C 中国            D 韓国

問 8 下線シの現象は、とりわけサンゴ礁からなる、この地域の島嶼国家では深刻である。これに関連して、ラグーン(潟湖)を有するサンゴ礁の地形として適切なものを、次の選択肢から1つ選び、その記号をマークせよ。(解答番号=47)

A 岩礁

B 堡礁

C 裾礁

D 沈礁

